



差別のない社会を!!
 差別禁止法と条例づくりに学ぶ
 主催 埼玉学習フォーラム

一月十七日、埼玉県障害者交流センターを会場に、「障害者差別禁止法」と「さいたま市ノーマライゼーション条例」の講演とシンポジウムを開催しました。

講演1は、さいたま市ノーマライゼーション条例について、さいたま市福祉部長の山本信二氏がその経過を、教訓も含めて語りました。



講演2は、内閣府の障害者制度改革担当室の赤松英知氏から「障害者差別禁止法はどんな内容か、障害のある人や社会に与える影響」について語りました。

昨年政権交代の後、障がい者制度改革推進会議から障害者政策委員会に引き継がれ、意見がまとめられたこと、今後、法案化して次期通常国会に提出する内容について説明がありました。

「差別とは何かを特定すること。ただ罰すればいいというのではなく、理解を広げ差別をなくすことが重要」であり「様々な福祉施策と差別禁止の両方があってこそ、障害者の暮らしを前進させる」と語りました。シンポジウムは三人の当事者が登場し発言しました。

さいたま市聴覚障害者協会川津雅弘氏、くればすの見方信子氏（筋ジストロフィー）知的障害の横山正明氏が、それぞれの体験の中で差別されたことを語り、理解を拓けるには交流を深めることが大事だと訴えました。

一日も早い 権利条約の施行を

さいたま市精神障害者当事者会
ウィーズ
藤澤 康

健常者の頃の私は、法制度とは大変難しく、法に違反しないように生きていけばよいといった感じでした。自分が精神障害者となって、障害者制度全般の不具合や遅れを実感し、主にさいたま市内で行われてきた障害者制度学習会になるべく参加してきました。

この度は、「埼玉障害フォーラム・差別禁止法と条例づくり」に学ぶ障害者制度に関する地域フォーラム」に参加しました。

難しい内容でしたが、私の感想として以下に報告させていただきます。

まず一つめは、「さいたま市のノーマライゼーション条例」についてでした。この条例は、市長のマニフェストに位置づけられたもので、さいたま市民の誰もが共に暮らすために、障害者の権利を擁護して行く条例です。主に、

障害者の差別や虐待の禁止が定義されています。二〇一一年三月施行で、国内でも先進的な条例になっているようですが、これから本格的に動き出すとの事です。障害当事者のみならず全市民にとって素晴らしい条例になって行く事を望みたいと深く思いました。

二つめは、「障害者差別禁止法」についてでした。現在、「差別禁止法」は法制化を目指していますが、国内現状や障害を理由とした差別禁止の検討等難しい課題がまだ多いそうです。

差別をなくして明るい未来を 障害者差別禁止法の学習会に参加して

横山 正明

私はこの学習会でいじめの体験を発表しました。「常にビンタされたり、物を隠されたり」など、日常茶飯事であったことを発表しましたが、気持ちが重くなって辛かったです。「もう2度と受けたくない!」と思いました。



それと肢体障害・聴覚障害のある方、難病の方の発表を聞きましたが、「なぜ私を差別するの? 同じ人間なのに」との言葉に、私も同じ気持ちでした。

障害のある人を差別することは決して許されることではありません。考えや気持ちなどを認めていくことです。そうすれば明るい未来が見えてくると思います。差別のない世の中を!

私はこの学習会でいろんな障害のある人と交流できて、とても楽しかったです。今後もこういう学習会に参加して、いろんな障害のある人と心をつなげていきたいと思っています。

その中で特に難しい「不均等待遇」と「合理的配慮の不提供」については講師の方が具体例をあげて説明してくれました。この「障害者差別禁止法」が施行されてから、国連の「障害者権利条約」を我が国が批准出来るとの事なので、一日も早い法制化および施行が望まれます。

最後に、障害当事者が参加してシンポジウムが行われました。当事者からは「ノーマライゼーション条例」制定に参加しての苦労話や、実際に受けた差別事例についての発表がありました。その中で、私の印象に残ったのは、「ノーマライゼーション条例」作成段階に障害当事者が数多く参加していた事です。大変だったようですが、参加を重ねるうちに、障害の種別を越えて団結力が高まって行ったという事に深い感銘を覚えました。と同時に、自身の不勉強や法制度への積極的参加意識の低さを改めて反省する事となったフォーラムでした。

バス研修・見学会
**プロになった
 知的な障害のある人たち**
 平成24年12月6日
 ココ・ファームワイナリーと足利学校

バス研修・見学会は、今回栃木県足利市にあるココ・ファームワイナリー、こころみ学園に行かせていただきました。

この時期いつも障害者の県民フォーラムと重なり、バス研修、見学会に参加することができませんでしたが、今回数年ぶりに参加することができました。

ココ・ファームワイナリーは、隣接する知的障害者更生施設こころみ学園で作られたぶどうや椎茸を仕入れ、ワインの加工、椎茸製品などを加工し、販売しているところです。

ワインも知的障害者自らつくっています。

現地に到着後、こころみ学園の事務長が、施設内、ぶどう畑、ワイナリーの一部、ワインの貯蔵庫などを案内し

てください、詳しくお話しをきくことができました。
 また作りたてのワインの試飲もさせてもらいました。

事務長のお話しや実際見てみて、印象に残ったことは、できることは自分たちでなんでもやるということ。

知的障害者だからできないと決めつけないでなんでもやらせてみる。くり返し、くり返しやらせてみる。

その間職員がよく彼らのことを見ていてくれる。

その中で「こころみ」には誰にも負けないプロが育ち、いろんな部署で活

躍しているとのことでした。
 最初は訓練の為に、ぶどう作りを始めました。

そのぶどう畑は急な山の斜面にあり、実際角度が三十八度だそうで、スキーのジャンプ台が三十五度とのことで、いかに急斜面にぶどう畑が造られているか、驚きでした。

自分たちでぶどうの収穫、暑い中の草取り、寒い時期の草刈りが大変のことでした。

収穫したぶどうを売っていましたが、豊作や不作があり安定しない、そこで園長がもととお酒が好きで、ぶどう



大きな樽にはワインが…試飲もさせていただきました。

を使うのワインづくりには、うまいもの、誇れるワインを始めたそうです。過去に沖繩サミットでは、スパークリングワイン、洞爺湖サミットでは赤ワインが使われたそうです。

こうしたワインを作れるのも、ぶどうをカラスから守るために、朝早くから夜までカラスの番をする係がいて、良質のぶどうが収穫できるのだと聞きました。

「こころみ」のプロを紹介すると、ピン詰めされたワインを、コルクのくずが入っていないかを検査する係は、普通の人もできない事を、いとも簡単にみつけてしまうことができる。他にもプロがいて、洗濯のプロは百名分の洗濯を毎日して取りこんで、たんでから一枚も間違わずに持ち主に返すという神業、専業主婦でもできない芸当、すごい事だと思いました。



午後からは、日本最古の学校、足利学校を見学し、帰途につきました。

今回参加でき、充実した一日を過ごすことが出来ました。(渡辺 浩二)

あうんの呼吸・インタビュー

障害があっても二人で生きる

平林進子さんに聞くその生き方

一年くらい前に、障害のある人のコンサートで、偶然席が隣同志になり、

コンサートを聞きながらお話を伺ったことがありました。やさしいご主人にすっかり者の奥さん。いい組み合わせですね。

でも、車いすを操作しながら車の運転もしていたご主人が運転をやめて、これからのことがちょっと気になりました。

気兼ねなくおしゃべりできる関係を生かして、遠慮なしにお話しをうかがいました。

インタビュー 浅輪 田鶴子

母は戦争未亡人でした

「いつも、お会いする時は「平林さんの奥さん」で通っています、お名前を伺ってもよろしいですか。」

平林 はい、名前は進子です。しんは進むという字、珍しいでしょ。

私、昭和十七年生まれなんですけど、その年の二月に日本軍がシンガポールに進攻して、日本中が沸いていたんですね。それで進子なんです。

「まあ、そうなんですか。そんな時代がありましたね。」

両親は結婚して東京に住んでいたんですが、父が出征して戦死して、浦和の常盤町にあった母の実家に弟もいっしょに住んでいたんです。

大きな家でね、私たちの他にも兄の嫁がやっぱり戦争未亡人になって、子供三人といっしょに住んでいましたね。進子さんの脚の障害はいつごろからですか。

私は先天性の股関節脱臼なんです。いつになっても歩かない、母もどうしてかなくて思っていたら歩き始めたんですが、ヒヨコタン、ヒヨコタンなんです。

どういうわけか、足が悪いということとを母は教えてくれなかったんです。小学校一年の時学校で、ある男の子にビッコビッコってはやされたんです。ビッコってなんだろうって思ってたんですね。

「それは、お母さんの育て方だったんです。しっかりした方で、そんなこと気にしない方だったんですか。」

「いえ、そんなことはありません。優しくて弱虫でしたよ。よく泣いていました。戦争未亡人でしたからね。私と弟は娘の孫ということ、おじいちゃんおばあちゃんには特別にかわいがってもらいました。」



平林進子さん

障害者支援を学ぶ場で

「ところで、ご主人平林さんとはどこで知り合ったんですか。」

東京で私がある障害者の先輩のカバン持ちやっているところに、東京の久留米園と言う施設で勉強会があったね、そこで知り合ったんです。

「意気投合するところがあつたんですね。平林さんも、おとなしいようですね、猪突猛進的のところ、ありますよね。」

猪突猛進で言うとかっこいいけど、反省が無いのね。

この間そこでひっくり返ったら、二度そこでひっくり返る事はないでしょう。でも、またやっちゃう。すべてがそうなの。

「結婚しようとしたとき反対はなかったんですか。」

「反対？ どういう意味？」

「ご家族からとか？」

「ああ、そういうこと。ありましたね。母はもう亡くなっていたんですが、伯父と伯母が反対しましたけど、親の反対とは違いますからね。」

「でも、最後のところは反対しませんでしたね。」

「進子さん自身は不安はなかったんですか。」

「いわゆる三高（学歴・収入・身長）が結婚相手の条件と言われている時代で、夫はぜんぶその反対でしたけど、あんまり考えていませんでした。」

私の代わりに母が…

「私ね、学校卒業して就職する時、最初は銀行の試験を受けました。学科は合格したんですが、足が悪いということ、銀行は接客業だからって断られたんですけど、ともかく、人手が無くて困っているところだからって、お母さんに来てもらえませんかかって母が採用されたんですよ。」

「ええ…：そんなことがあつたんですか？」

「母はずうっとその銀行で働かせてもらって、亡くなるまで、行員の皆さんにとっても大事にもらったって言

ってました。

—結果的に親孝行できたんですね。

銀行は不採用でしたけど、学校の先生に「公務員なら」と言われて国家公務員試験を受けました。

合格して採用されて登庁したその日、何やらザワザワしてて、後で聞いたら面接の時ビッコ引いてることに気が付かなかったので、部長秘書から経理係に変更したって言ってました。

一人息子はいま…

—それで、進子さんは、結婚して仕事を辞めたんですか。

いえいえ、そのまま勤めていましたよ。子どもができた時には産休取ってね。出産した時に輸血をたくさんしてC型肝炎になって産休明け間もなく子供を乳児院に預けて入院しました。

—大変だったんですね。お子さんは今、どうしていらつしゃいますか？

健志っていうんですけど、四十一歳になります。

なんか、商売をしたいと言ってたんですけど、新宿で小さな酒場をやっています。

私は早く手放そうと思ってたんですけど、犬を飼ってしましてね、その犬がいるうちは家にいたいと言ってたんですけど、犬が死ぬ二年前に出ていきました。



—ご両親のこと、どう見ていると思いますか。

どう見ているんでしょうねえ…
—平林さんは出身は？

富山なんです。

子供が生まれた時、平林の父が訪ねて来てくれましたね。両親はもうとっくに亡くなりましたけど…

出来ないことが増えてきて

—いま、お二人で生活していて、心配なこと、ありますか。

そりゃもう、心配すればきりがないですね。

ヘルパーさんに週1で入ってもらってるんですが、私ね、両手を同時に使って物事が出来ない。片手はどこかにつかまっていけないと動けないんですね。だから、掃除機がかけられなくなりました。

でもね、家事分担でい言う掃除は夫の仕事ですから、ヘルパーさんは夫の介護保険で頼んでるんです。お風呂の掃除とね。
—なるほど、頭いいですね！

ケアハウスってありますよね。私ね、料理がほんとに出来なくなったら、ケアハウスに入ろうって言ったんです。そうすればお食事作ってもらえるからって。

—そうしたら何で言ったと思いますか！絶対いやだって言うんです。ケアハウスは縛られるからって。

それで友達にその話をしたら、「あなたはさっさとケアハウスに入ればいいじゃない、夫はそのままにして」って言われました。

夫六十九歳、妻七十歳、私達もちゃんと年とっているんです。

ビッコという言葉

「ビッコ」は、他者に対する言葉としては留意が重要ですが、これは自分のことであり、当時は普通に使われていた表現ですから、まったく問題ありません。

「ビッコ」をほかの言葉に言い換えたとしても、実態が変わらなければあまり意味がないと考えています。

夫・平林 彰

三国コカ・コーラグループ 自動販売機総合オペレーター



三国フーズ株式会社

私たちは『飲・食』のサービスを通じ、
すべての人々へ『うるおい』を提供します。

〈本社〉 〒363-8601
埼玉県桶川市大字加納180番地
TEL 0120-568-392



みんなが話そう

百八十名の新年会

さいたま市聴覚障害者協会

青山 淑子



餅つきも、みんなで仲よく楽しんで……

さいたま市聴覚障害者協会の恒例行事新年会が、一月六日に晴天のもと、埼玉県障害者交流センターにて開催されました。

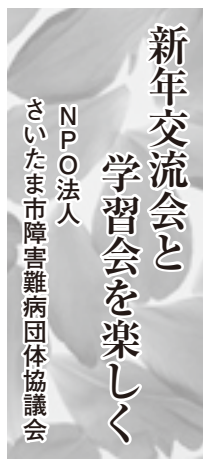
新年会はさいたま市手話通訳問題研究会とさいたま市手話サークル連絡協議会との共催です。そして、重複障害者施設の「ふれあいの里・どんぐり」「春里どんぐりの家」の仲間にも参加

してもらい、楽しく交流しています。障害福祉課の大久保係長、社協事業課の青柳課長、障害者協議会の浅輪会長にもご挨拶をいただき、つきたてのお餅を召し上がっていただきました。

普段はあまり顔を合わせない協会会員も、研究会会員も、サークル連会員も多数参加するので、今年度の参加者数は定員を大幅に超過する一八〇名強の参加でした。

今は、お餅を搗くという風景もあり見られなくなりましたが新年会は搗きたてのお餅を食べる楽しさも体験できる唯一の行事です。

準備も大変ですが、このような場での交流はお互いの近況を知る大切な場でもあるのです。



新年交流会と学習会を楽しく

NPO法人

さいたま市障害難病団体協議会

平成二十四年度障害難病福祉相談室は、私たち障害難病児・者と家族が、日頃、理解と支援をくださる皆様に感謝を込めて、歓談のひとつ『新春交流会』と、正しい口腔のケアを求める『学習会』を平成二十五年一月二十九

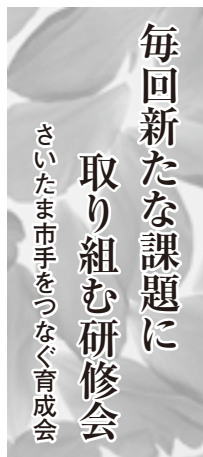


日(火)、さいたま市社会福祉協議会大宮ふれあい福祉センターを会場に、参加者多数、有意義に開催いたしました。

第二十回『学習会』の医療講演は歯科医師小宮山和正先生(医学博士)を講師にお招きし、障害・難病者の口腔ケア「嚥下について」をテーマとし、摂食嚥下障害のスクリーニングを学び、自分の歯で噛める人は寝たきりになりたくない。例に見られるように、口腔機能の向上への取り組みのひとつ、講演訓練(舌の筋力増強)など、分かりやすい資料も添えられて、参加者は必要可能な毎日の「予防法」を興味深く会得することができました。

健康で長寿のうた:

死ぬまで元気でいるために
ツ 努めてからだ動かして
カ 格好良くスマートで
リ 理想体重でいましょうね
タ 食べ物シツカリ食べましょう
ベ 弁当ばかり買わないで
ヨ 余計なお菓子も控えましょう
ウ 歌が出るよな楽しい毎日送りましょう



毎回新たな課題に 取り組む研修会

さいたま市手をつなぐ育成会

さいたま市手をつなぐ育成会は、発当初から研修委員会を作って障害のある人の家族・関係者を始め、多くの方たちを対象に、研修会を多数開催してきました。

昨年度からは、委員を増やし、名称も「家族支援フォーラム」として、課題や疑問、会員外の要望等を取り入れた企画も立てています。

多くの方々に研修会の存在や繋がる意義を知っていただく事は、私たちの役割と位置づけ広く広報もしています。対象が広範囲になると、年齢層や生活

状況を考慮しての研修内容の検討が何より大変です。
 そんな努力が実ったのか、回を追う毎に参加者数が増えています。



参加者からの発表も多く聞くことができます。

研修委員会での僅かな経験からも、知る事の大切さ・体験した話の重さを実感します。立場や視点が違う講師の話に毎回新たな発見があり、参加者には繋がっている思いを持ち帰っていただけそう頑張っています。

障害者協議会の各団体は、相互理解を得られる良い環境にあると思います。今後は、みなさんのお力を借りて地域の理解を得るための「家族支援フォーラム」を企画して行けたらと思います。

研修委員長 黒澤 篤子



ヘルパーも参加して 生花教室
 さいたま市視覚障害者協会
 綱川マサ子・小沢 里

大宮ふれあい福祉センター4Fで視協の生け花教室があります。日本古流華泉会三須一壮先生の教室です。
 年間十一回、当事者十数名、付き添いはご主人が二名ヘルパーが四人位参加して花器や花材を運びあげたり、生ける時に散らかした枝や切りはなした

葉の後始末等見守って載っています。生ける枝や花の長さは新聞紙の三辺と手指の長さや巾を基本にしています。方向性は自分の肩巾、頭顔を頼りに決めていきます。
 一壮先生、一紀先生(娘さん)はこだわりなく教えて下さいますが、こうした分かり易い指導法で四十年も続けているそうです。市の合併以前は県の組織だったから川口、熊谷、川越の会員もいて大勢だったようです。ふれあ

団体 紹介
 二つの使命を掲げて
 OMIYA ぱりあフリー研究会

今から二十年ほど昔のこと、当時私は相次いだ両親の死の打撃からようやく立ち直り、何とか自立せねばという思いに駆り立てられていました。そんな時偶然知り合ったのが春日部・越谷方面で「地域でともに」を合言葉に障害者の自立運動を展開していた「わらじの会」でした。そのわらじの人たちが中心になって毎年行われている「交通アクセス埼玉統一行動」をこの年大宮駅でやることになりました。九十六年十月のことです。それで大宮に住んでいる人で誰か中心になってやってくれる人がいないかということ、私の名前が挙がりました。
 当時は手動でしたが、車イスでの外

出をし始めたところで、エレベーターの全くない大宮駅の使いにくさをなんとかせねばと思っていたこともあり、先ずは大宮社協に相談に行きました。そこで親身になって相談に乗ってくださったボランティアコーディネーターの方との出会いがあり、市内のボランティア団体や障害当事者、また、市立養護学校の生徒さんたちに声をかけることができ、大宮駅の点検はどうにかやり遂げることができました。
 この点検がきっかけで、その後「大宮駅を良くする会」という集まりを行政の参加も得て何度か行ない、「OMIYA ぱりあフリー研究会」へと発展しました。公共交通機関をもっと使い

い館が出来る前はみのり園や大宮盲人ホームが会場だったそうです。同じように教わっても作品はみんな違うから不思議です。先輩はうまくまとめるし、新米は夢中になってもうまく生けられなくて先生に SOS です。大きな作品展でも私達のコーナーを設けて分け隔てなしです。
 バリアフリー、ノーマライゼーションで、一人前にいい気分で楽しんでいます。

やすくする、地域の情報発信の場とする、「ぱり研」にはこの二つの目的がありました。
 当初はみんなが集まる場所もなく、ふれあい福祉センターの会議室や公民館を借りたりしていましたが、やはりきちっとした運営をしていきたいという思いが強くなり市にデイケアの申請をしたところ、思いがけずに認められ、大栄橋近くのビルの上階でデイケア事業を始めることになりました。九十八年四月のことです。デイケアのメンバーは6名、それに私ともう一名男性のスタッフがいました。月一回の「ぱり研通信」発行や大宮駅近くの車イス用トイレの点検など小さな集団でしたが、「やさしい言葉で分けなないで」を motto にまちに出ていきました。

代表 傳田ひろみ

前日の大雪にもめげず 新年団体交流会

標題の交流会は一月一六日、パレスホテル大宮 クラウンレストランで開催されました。私は今回で二回目の参加になります。

失聴歴は長いですが、これまではどちらかと言うと、人工内耳装用者の会『A C I T A』に関わっていた関係で、難聴者・中途失聴者協会との関わりは、それほど深くはありませんでした。

そんな訳で、地元での活動も少なく、今まで市内にどんな障害者団体があるかさえも知りませんでした。

しかし二年前、川原英夫前会長の後を受けて、難聴協会に関わるようになり、地元での活動を始めました。

当日は生憎、前日降雪があり、道路は凍っており、取り分け日蔭のところはアイスリンクのようにつるつるの状態でした。そのためか、開宴は少し遅れて始まりました。

まず初めに浅輪会長の挨拶があり、ついでそれぞれ簡単な挨拶。しかし私の聴力では、皆さんのお話しは理解できません。要約筆記者の力を借りてようやく要点のみ少し理解できる程度なので、交流会の模様をここに活写するはちよつと無理があります。

人工内耳から入る音域の幅は狭く、

下は四〇デシベル、上は七〇デシベルです。したがって四〇デシベル以下ないし七〇デシベル以上の音は聞き取れないと言うことになります。おまけに健聴の人のチャンネル(有毛細胞)は三〇〇〇とも言われています。



▲みんな笑がお



しかし私が装用している人工内耳では二二チャンネルしかありません。つまり二二チャンネルで三〇〇〇チャンネルの代替えをしている訳ですから、人工内耳から入ってくる言葉は、明瞭ではありませんが、リハビリを繰り返すことによつて、かなり明瞭な言葉になって来ます。

男女の声を比較すると、女性の声聞き易いです。男性の声は野太くて低いので難点です。さて、交流会に戻つて、料理はフランス料理？ですが、レストランにはめつたに行かず、専ら居酒屋を根拠地に行っている身にとつては、ちよつと落ち着かない場所でしたが、料理はおいしかったです。

最後にアマダ籤の特賞が当たり、幸先よい新年の始まりとなりました。ありがとうございます。

さいたま市難聴者・中途失聴者協会
岡田 孝司

編集後記

安倍さんが総理になられ、アベノミクスの経済効果が期待されています。前回、安倍さんはお腹の病気で総理を退陣されました。点滴を受けながらも痩せていく総理をみていて、いったいどうしたのかと心配したものです。

総理が潰瘍性大腸炎だったと報道で知りました。潰瘍性大腸炎は難病指定されている特定疾患の病気で、この病気で苦しんでおられる人は日本で一〇万人以上もいるそうです。原因不明で治る治療法もなく、不安で辛い闘病生活だったと想像します。

現在は体にあつた良い薬に恵まれ活躍されています。このような病気を一つでも多く救える医療が開発されるよう期待しています。事務局 松澤

さいたま市障害者協議会
会報あ・うん第18号
発行 さいたま市障害者協議会
会長 浅輪 田鶴子
編集 さいたま市障害者協議会広報委員会
〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-213-1
大宮ふれあい福祉センター4階
TEL 048-653-7271
FAX 048-653-7341
http://www.saitama-planet.com/
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。